

平成 21 年度 NPO 行政テーマ別意見交換会議事録

テーマ：「あいちの住まい・まちづくり」の課題と対策

- 1 日時 平成 21 年 7 月 30 日（木） 午後 2 時～5 時
- 2 場所 あいち NPO 交流プラザ
- 3 参加者 NPO 8 名 行政 9 名
- 4 内容（要旨）
 - ・担当者より資料説明

《現在のマスタープランに対する意見、次期マスタープランに盛り込むべき視点》

- ・マスタープランを作る際には、全体的な取組みと、地域・専門分野別の取組みの両方が必要である。NPOでも全体的に関わる団体と専門的に関わる団体があると思う。
- ・施策体系の中に「高齢者」という言葉はいくつか見受けられるが、「障害者」という言葉はあまりない。高齢者「等」として表現されているのかもしれないが、障害者は近年地域で生活したり、親から独立して生活する動きがあるものの、バリアフリーになっていて障害年金で入居できるような住宅は少なく、住宅環境は整っていないと感じる。自分は車椅子を使用しているが、高齢者向けの公営住宅に 18 回応募してようやく入居できた。
- ・障害者が住宅を探す際にどの種類の住宅（公共、民間、持家）で困ったのか？
- ・公営住宅の車椅子対応住宅は、一定の仕様で作られているが、抽選に当たらないと中を見せてもらえない。一般の住宅でも、段差がなく広く作ってあると車椅子使用者も住むことができるので、そのようなタイプの住宅を増やしてほしい。民間の住宅は家主が貸してくれない。高齢者向けに作ってあっても、車椅子使用者が使えるかどうかが重要だ。
- ・高齢者の支援をしている。現施策には建物に関することが目つくが、食生活が貧弱で、コミュニケーションが少ない（引きこもり・孤独な高齢者）と感じる。集合住宅の集会室にキッチンがあるとよい。現在、配食サービスは行き届いてきたが、それを部屋で一人で食べるのではなく、交流の場があって、そこで一緒に食事を作ったり、食べられるとよい。新たなコミュニティビジネスや地域との繋がりが生まれると思う。地域の空き家・空き店舗も活用できると思う。ハード面だけではなく、住む人のメンタル面にも気配りしてもらえるとよい。
- ・市の地域福祉計画づくりに参加しているが、食を中心とした「居場所づくり」がキーワードになっている。高齢者、障害者、子育て世代など、いろいろな人の交流の場を作ることが必要だと考える。このプランでは、「住まい」と「まちづくり」がくっついていることがよいと思うが、住まいが安心なだけでなく、住まいがあるまちも安心でなくてはならないと思う。現プランの施策体系の 2 に、「いきいきとした住生活が実現できる住まい・まちづくり」とあるが、「住」だけいきいきしていることはありえないので、「住生活」とあるが、「住」はいらぬのでは。
- ・集合住宅に設置された高齢者支援施設で活動しているが、集合住宅内の集会所を、地域

の集まりの場として使いたいと考えていたが、管理者の自治会の協力を得にくく、有効に使えていない。自治会も高齢化が進み、担い手が少ない。ハードを整えても、ソフトが追いついていないと感じる。ハード面・ソフト面一緒に考えられないか？

- ・地域の力が低下しており、行政からいい施策がでて、地域が受け止められない。自治会活動が低下しているため、地域とNPOの協力が進まない。
- ・集会所の運営をNPOに委託する形があってもよいのでは。NPOから提案しても自治会が引いてしまうことが多い。
- ・高齢者の生活支援については、福祉・医療分野とリフォーム等住宅分野の連携が必要である。計画づくりの際にも、行政の住宅部局と福祉・医療部局が連携するしくみを考えてほしい。今日も福祉のNPOがいくつか参加しているが、住まい・まちづくりに高い関心を持っている福祉のNPOは多い。
- ・行政は、異なる部署で同じような施策をやっていることがあるので、統合や役割分担をするとよいのでは。
- ・現プランの施策体系には、生活者の視点が感じられない。他の地方では、大規模ショッピングセンターの閉店が地域社会の崩壊に繋がり、地域の重荷になっている。これは土地利用の問題であり、例えば、私権を制限するような施策（都市計画行政）についても考慮すべき。

《行政とNPOとの連携・協働について》

- ・ある市では、行政が地域で必要だと思うと、部署を超えて一緒に考え、工夫し、バックアップしてくれた。
- ・地域の現場で活動しているNPOには、地域の課題を発見する力がある。
- ・いろいろな分野に精通している人が属していて、連携力・総合力があるNPOもいる。
- ・NPOから行政に相談・提案し、事業化したこともある。
- ・NPOが行政から相談され、提案しても、その後ほったらかしにされることが多い。すべて事業化されるのは難しいと思うが、実現しなくても提案の結果を知らせて欲しい。
- ・行政は担当者が数年で変わるが、NPOは継続的に活動している。その特徴を理解して継続的につながることが大事だと思う。行政は財政が厳しいというが、一定のサービスを提供する責務はあると思う。民間でもやれることはやりながら、行政により高いレベルのサービスを求めている。
- ・障害者と高齢者とは価値観が異なるので、一緒にされても困る。自立に向けた障害者運動はあるが、高齢者運動などはない。もちろん、障害者運動の結果として、スロープやエレベーターの設置など高齢者の役に立った例もある。
- ・〇〇運動とすると、お互いが反目することが出てくるので、行政に求めるだけではだめで、当事者が意識を持って一緒に進めていくべき。

- ・家電製品等では「トップランナー方式」が取り入れられているが、住宅関連（住まい・建物・居場所など）でもこのような方式が欲しい。
 - 改正省エネ法に基づき、平成 22 年度から一定戸数以上の戸建住宅を供給する住宅事業建築主に省エネ性能の向上を促す制度が導入される。それ以外の法制化・条例化はまだないが、国等がモデル事業を通じて補助金等で支援する流れはある。
- ・トップランナーに対しては、どのような支援が考えられるか？
 - 進んだ取組みをしてもお金で苦労している NPO は多いので、資金面の支援があるとよいのでは。NPO が集合住宅を作る際に土地の取得が問題になることが多いので、行政が土地を確保してくれるとよい。また、住まいの使い方を含めたトップランナー方式ができないか。例えば、ゴジカラ村など。
- ・年々増加している高齢者が車を手放すことが予想される。その時に車に替わる移動手段が必要となるが、この問題を地域で解決したいと思っている。建物だけではなく、まちづくりにはいろいろな課題がある。
- ・NPO だけでやれることは限られており、行政とも協働したいが、それには NPO としての基礎も必要。住まいでは、高齢者だけ、障害者だけが住んでいる住宅・団地に問題が出ている。いろいろな人が混ぜこぜにいてこそそのコミュニティだと思う。公的な集合住宅に福祉やまちづくりの若手の NPO スタッフを入居させて、そこで活動しながら住むことができる制度も考えられるのではないか。
- ・全室車椅子対応の賃貸住宅を建てたいという相談があったが、入居者は障害年金受給者などが想定され、家賃を低く設定する必要があるがあった。そこで、家賃を補助する制度を探したが、見つけれずに断念した。お金の問題はあある。

《NPO と、何を、どうやってやるか》

- ・行政は施策の立案に当たり、予算措置や実施体制なども含めた様々な検討が必要であり、NPO との協働も含め施策の内容や進め方について相談することが必要と考えている。その場合、すべての NPO から意見を聞くことは不可能であり、どのような NPO 又は団体等に声をかければよいか。
- ・このような意見交換会があることを、住宅・まちづくり関連の NPO に周知徹底して欲しい。
- ・NPO との恒常的な繋がり、パイプづくりが大切であり、意見交換会など継続的な話し合いを望む。
- ・行政も市民（NPO）も対等の立場で協力し合えたら新しいものができると思う。何度か一緒に話し合うことが大事。
- ・NPO の特徴は総合性・継続性であり、行政も高いレベルで付き合っていて欲しい。行政への期待はあり、それに応えて欲しい。意見交換会がその推進の場になるとよい。
- ・NPO について行政はどこまで知っているか、NPO の活動現場に来て実態を見て欲しい。

い。信頼関係は、話し合い、互いを見たり聞いたり、触れあうことで生まれる。

- ・「住宅ありき」ではなく、「人ありき・生活ありき」のプランだと思った。力をもっているNPOもあるので、NPOを信頼して活かして欲しい。

《次期マスタープラン策定過程の市民・NPOの参加方法についての意見》

- ・次期プラン作成の地域会議などでは、障害者、高齢者など当事者の声を反映させて欲しい。障害者も、障害の程度、価値観などは様々なので、ひとくくりにしないで欲しい。
- ・高齢者も障害者も、住みなれた町で安心して暮らしたいという思いは同じだと思う。
- ・当事者の意見を聞いて、受け止めて、プランを作って欲しい。
- ・今回はやや福祉分野の参加者の割合が高いと思うが、バラエティに富んだ、もっと多くの参加者の集まりがよいのではないか。
- ・地域会議や地域ワークショップの進め方についてだが、プランについてのレクチャーや参加者が質問できる場があるとよいのではないか。あわせて現プランの進み具合がわかるもの（指標など）を持って参加できると、より有効な意見が出せると思う。前回の地域ワークショップにも参加したが、そのときに出た意見や課題がどうプランに反映されたか分かりづらい。反映されているのか読み取れないと力が入らない。

《最後に》

- ・NPOとの関わりがこれまでなかったが、いろいろな意見があることがわかり新鮮だった。
- ・行政は縦割りだが、NPOは幅広く横で仕事をしており、行政の視点に欠けている点だと思った。
- ・NPOの話聞いて、地域の現場をよくわかっていることが理解でき、連携したいと思った。
- ・NPOにはいろいろな活動をしている団体があり、「NPO」とひとくくりできないことがわかった。
- ・計画を作ることが目的ではなく、計画を作り施策を進めて住まいを改善し、みんながハッピーになることが目標。その最終目標はNPOと共有できるものであると思うので、対立するのではなく一緒に検討していきたい。
- ・NPOの方から地域の課題を伝えていただけて、勉強になった。
- ・NPOから住民の視点をどんどん取り入れて計画を作っていきたい。

以上

文責 あいちNPO交流プラザ